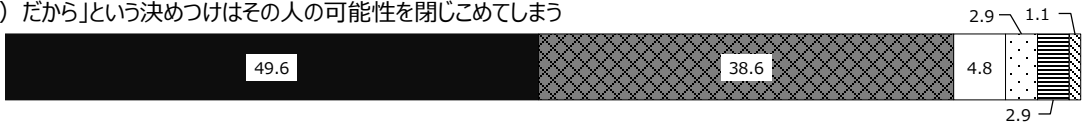


## 4 男女の生き方や家庭生活、子どもなどに関する考え、意識について

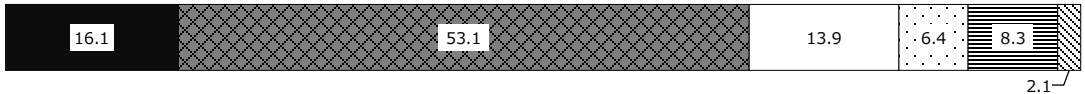
問11 男女の生き方や家庭生活などに関する考え方について、あなたの考えをお聞きします。それぞれ1つ選んで番号に○をつけてください。

■ そう思う    ▨ やや思う    □ やや思わない    □ そう思わない    ▨ 分からない    ☒ 未回答

a. 「男（女）だから」という決めつけはその人の可能性を閉じこめてしまう



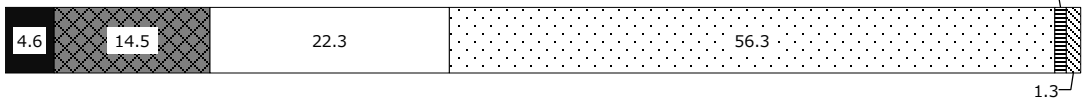
b. 社会の意識やそれに基づく制度・慣行によって、男女が仕事や生き方について多様な選択ができていない



c. 男女ともに仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである



d. 私は「男性は仕事、女性は家庭」という考え方である



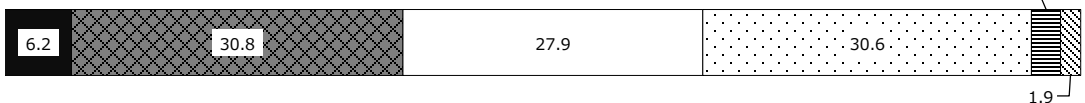
e. 男性も家事・育児に積極的に参加すべきである



f. 男性は、一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである



g. 女性は、結婚したら自分自身よりも夫や子どもなど家族を中心に考えて生活すべきである



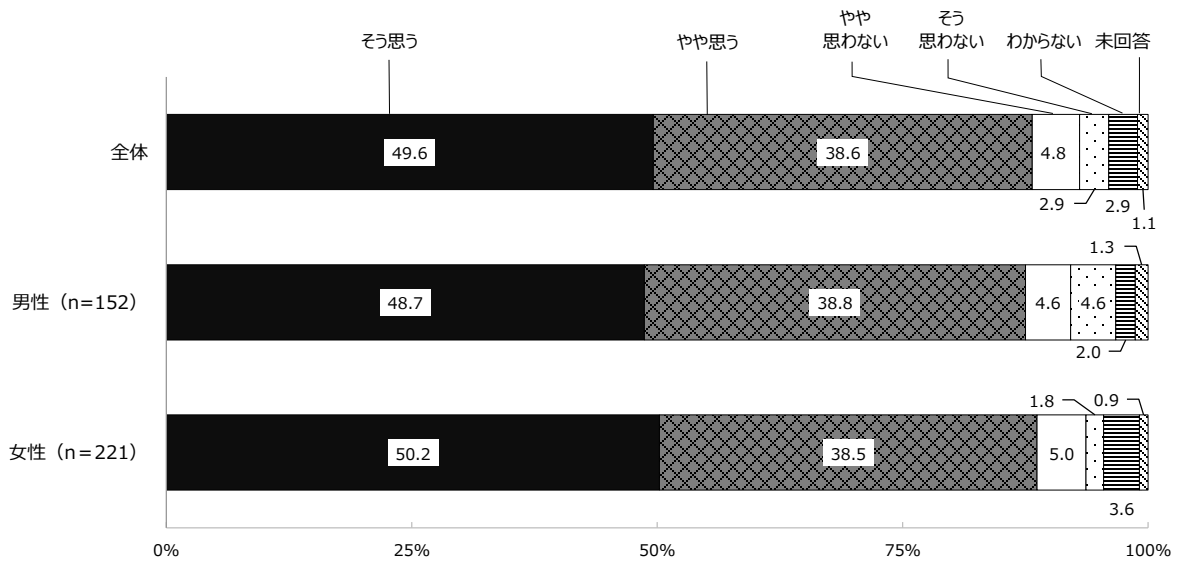
h. 女性は、仕事をもって家事・育児もきちんとすべきである



i. 女性（妻）が仕事をもって、男性（夫）が家事・育児に専念するという選択肢があってもよい



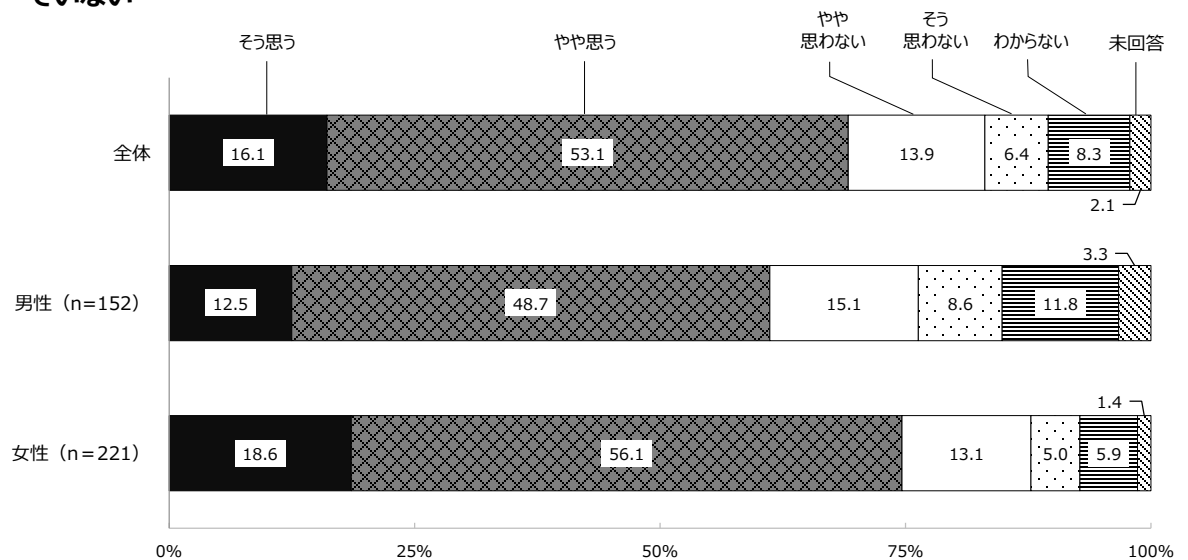
a. 「男（女）だから」という決めつけはその人の可能性を閉じこめてしまう



『「男(女)だから」という決めつけはその人の可能性を閉じ込めてしまう』と思うか聞いたところ、「そう思う」「やや思う」が88.2%、「そう思わない」「やや思わない」が7.7%となっている。

性別による格差はほとんどみられない。

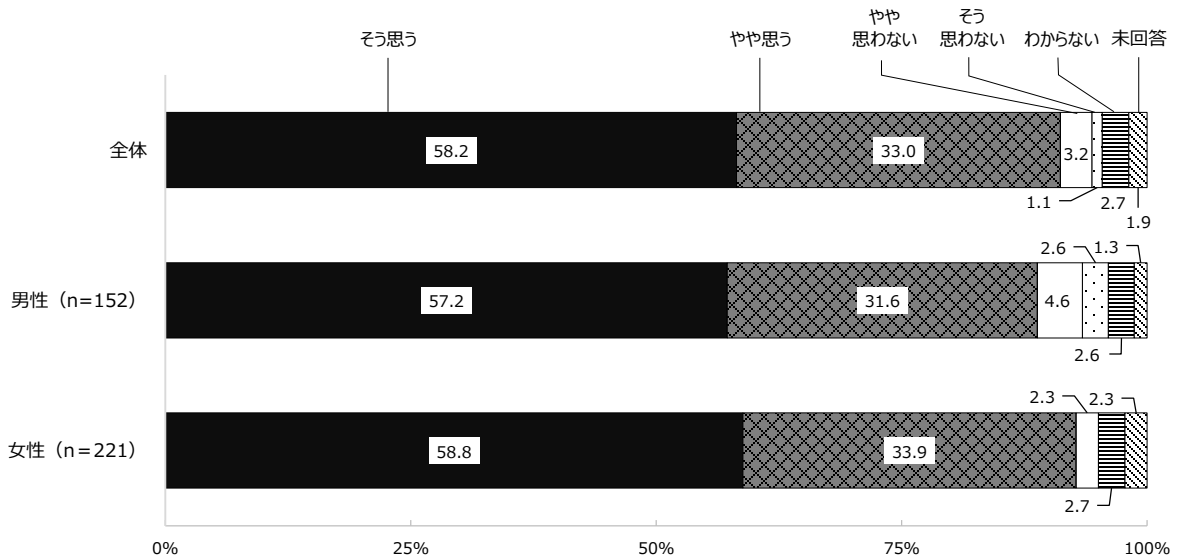
b. 社会の意識やそれに基づく制度・慣行によって、男女が仕事や生き方について多様な選択ができていない



『社会の意識やそれに基づく制度・慣行によって、男女が仕事や生き方について多様な選択ができていない』と思うか聞いたところ、「そう思う」「やや思う」が69.2%、「そう思わない」「やや思わない」が20.3%となっている。

性別で見ると、「そう思う」「やや思う」は女性（74.7%）が男性（61.2%）より、13.5ポイント高くなっている。

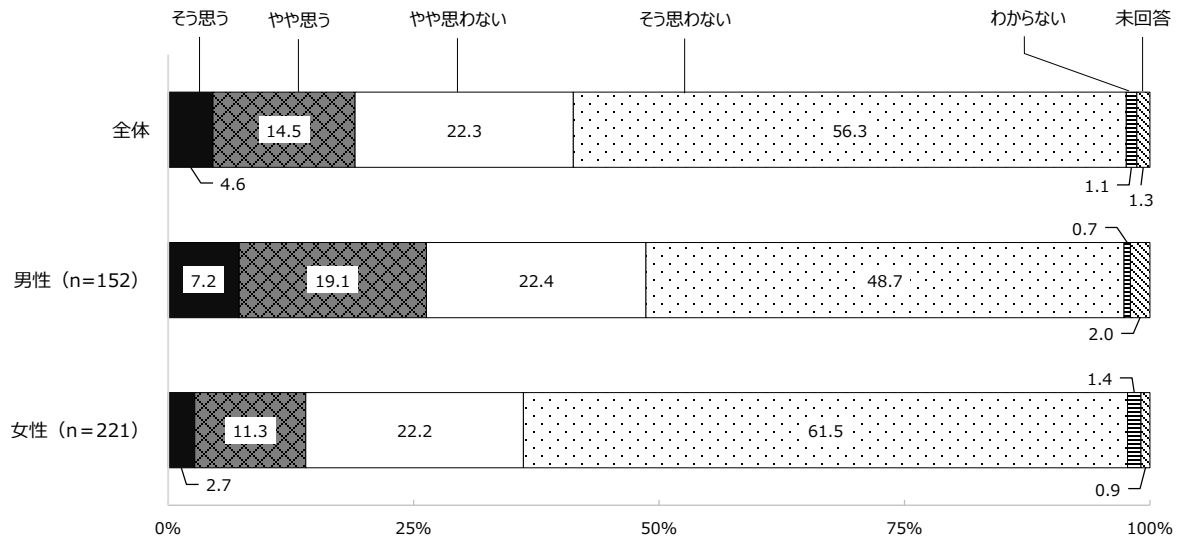
c. 男女ともに仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである



『男女ともに仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである』と思うか聞いたところ、「そう思う」「やや思う」が91.2%、「そう思わない」「やや思わない」が4.3%となっている。

性別による格差はほとんどみられない。

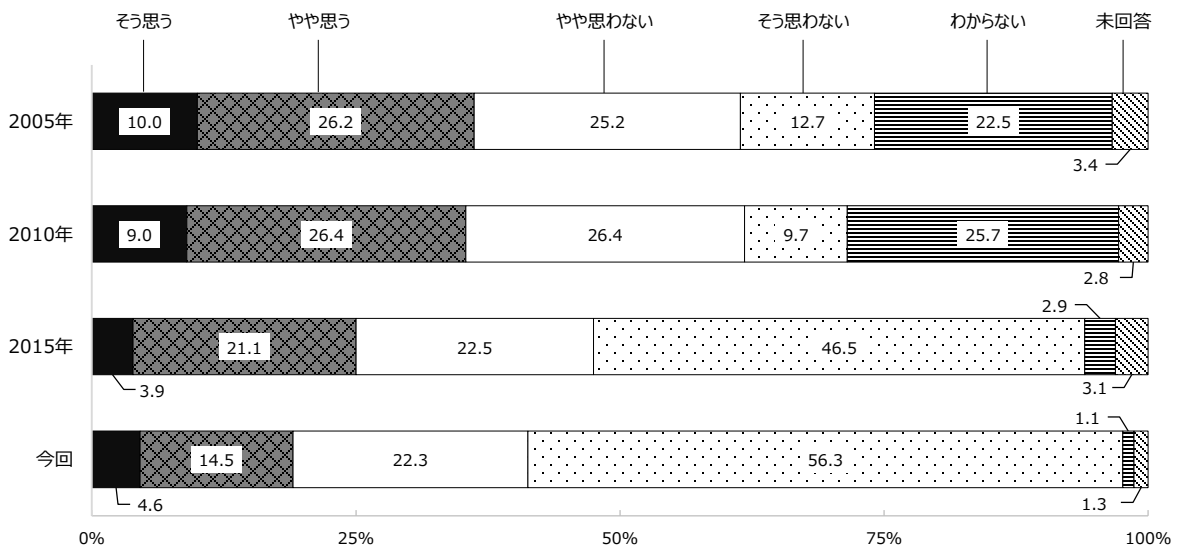
d. 私は「男性は仕事、女性は家庭」という考え方である



『私は「男性は仕事、女性は家庭」という考え方である』と思うか聞いたところ、「そう思う」「やや思う」が19.1%、「そう思わない」「やや思わない」が78.6%となっている。

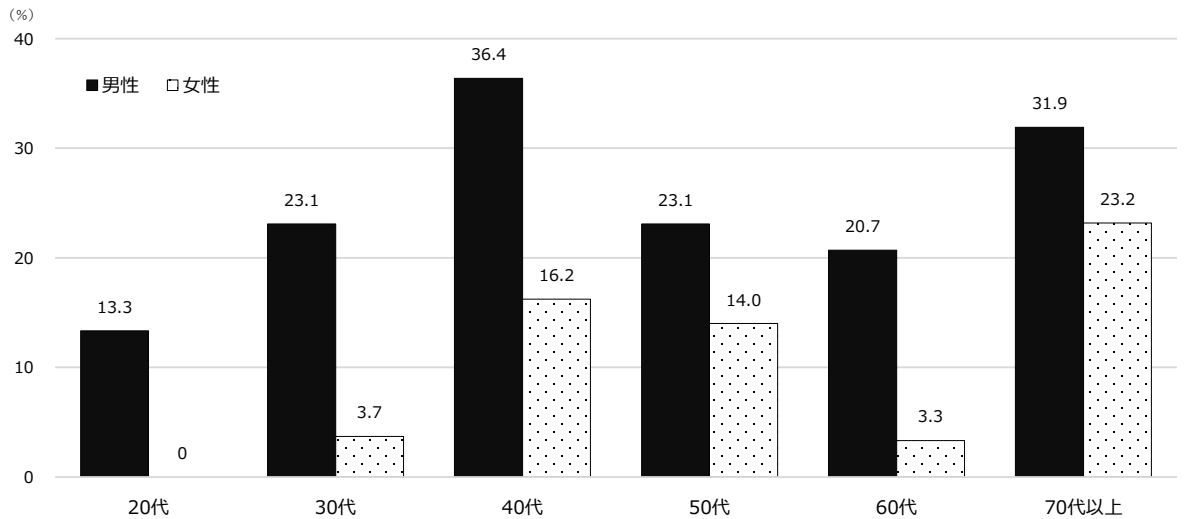
性別で見ると、「そう思う」「やや思う」は女性（14.0%）の方が男性（26.3%）より、12.3ポイント低くなっている。

▶ 『d.私は「男性は仕事、女性の家庭」という考え方である』に対する過去の調査との比較



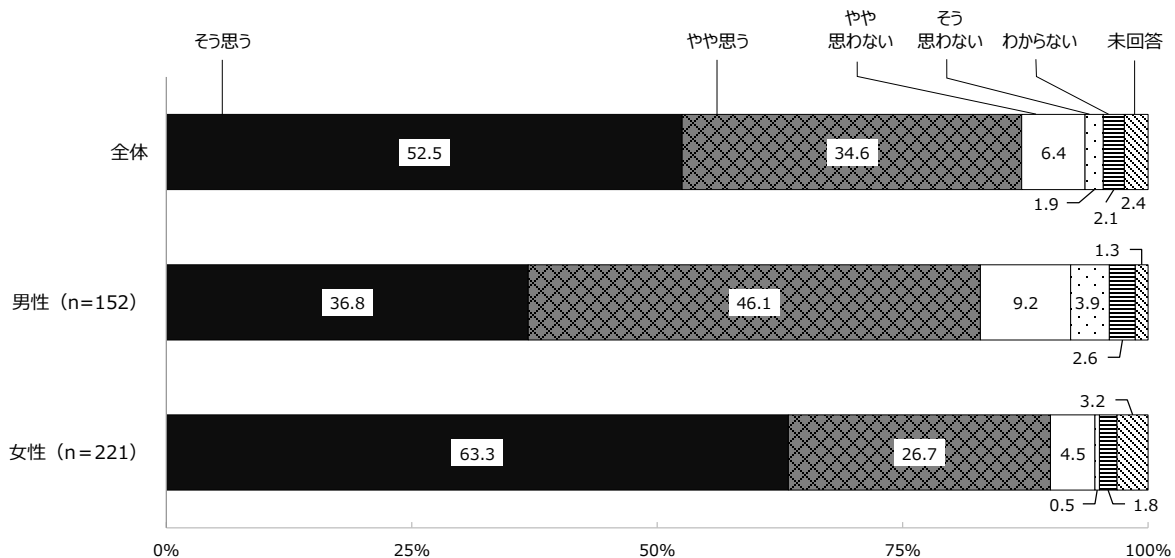
過去に実施した調査結果と比較したところ、「そう思う」「やや思う」と回答した割合は経年により減少している。

▶ 『d.私は「男性は仕事、女性の家庭」という考え方である』に対して「そう思う」「やや思う」と回答した男女の年代別割合



「そう思う」「やや思う」と回答した割合を年代別・男女別で見ると、40代男性（36.4%）が最も高くなっていた。次いで70代以上男性（31.9%）、70代以上女性（23.2%）の順になっている。

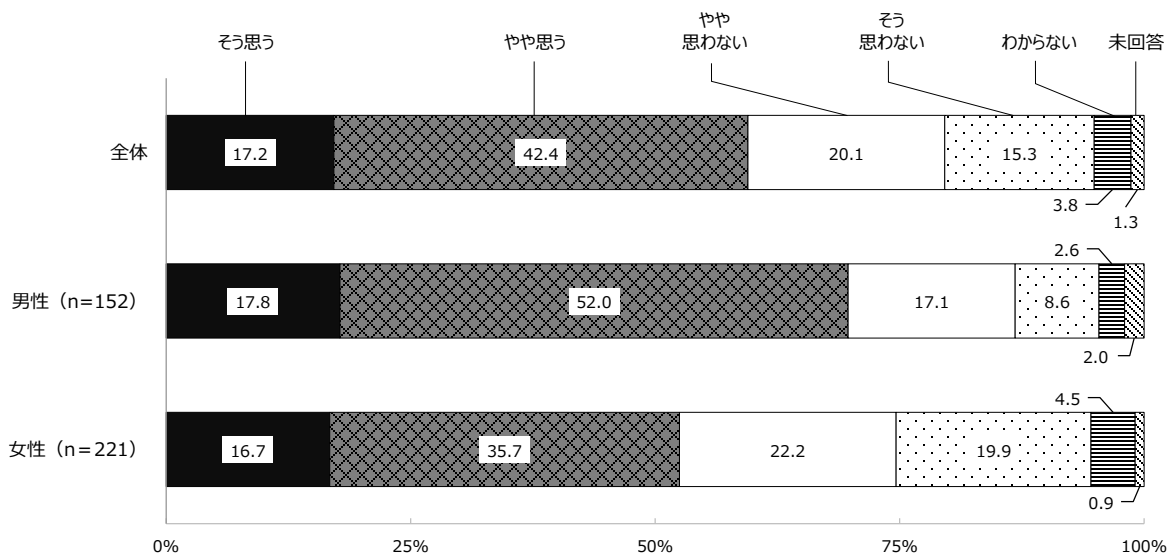
**e. 男性も家事・育児に積極的に参加すべきである**



『男性も家事・育児に積極的に参加すべきである』と思うか聞いたところ、「そう思う」「やや思う」が87.1%、「そう思わない」「やや思わない」が8.3%となっている。

性別で見ると、「そう思う」「やや思う」は女性（90.0%）が男性（82.9%）より、7.1ポイント高くなっている。

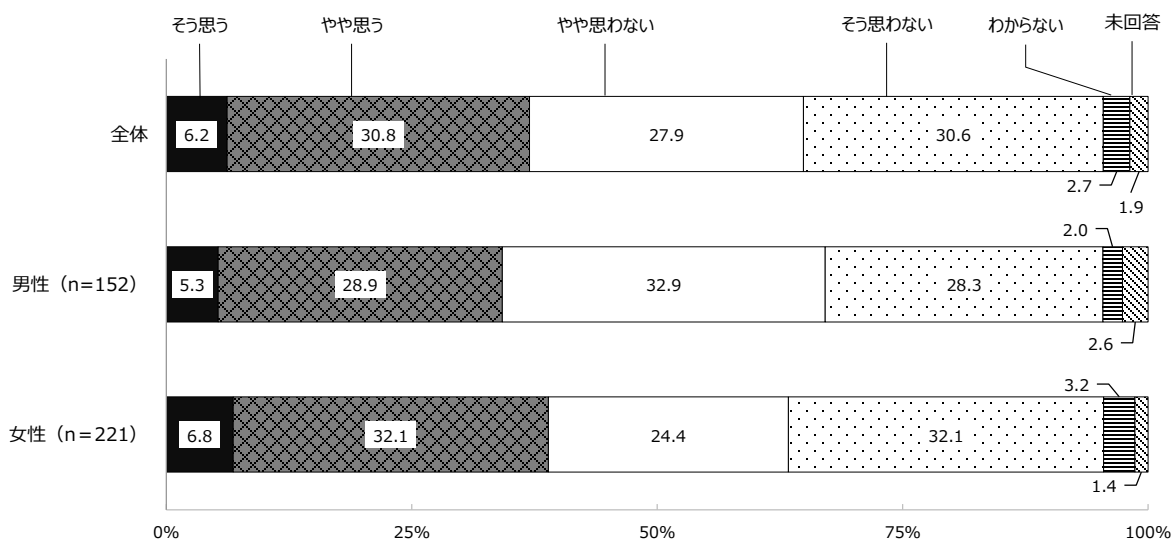
**f. 男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである**



『男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである』と思うか聞いたところ、「そう思う」「やや思う」が59.6%、「そう思わない」「やや思わない」が35.4%となっている。

性別で見ると、「そう思う」「やや思う」は女性（52.4%）の方が男性（69.8%）より、17.4ポイント低くなっている。

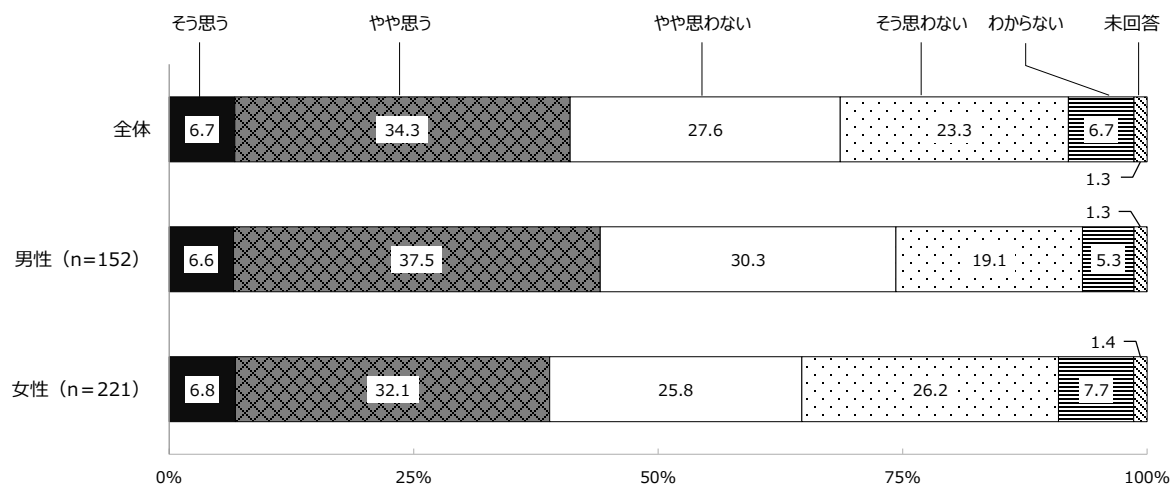
### g. 女性は、結婚したら自分自身よりも夫や子どもなど家族を中心に考えて生活すべきである



『女性は、結婚したら自分自身よりも夫や子どもなど家族を中心に考えて生活すべきである』と思うか聞いたところ、「そう思う」「やや思う」が37.0%、「そう思わない」「やや思わない」が58.5%となっている。

性別で見ると、「そう思う」「やや思う」は女性（38.9%）が男性（34.2%）より4.7ポイント高くなっている。

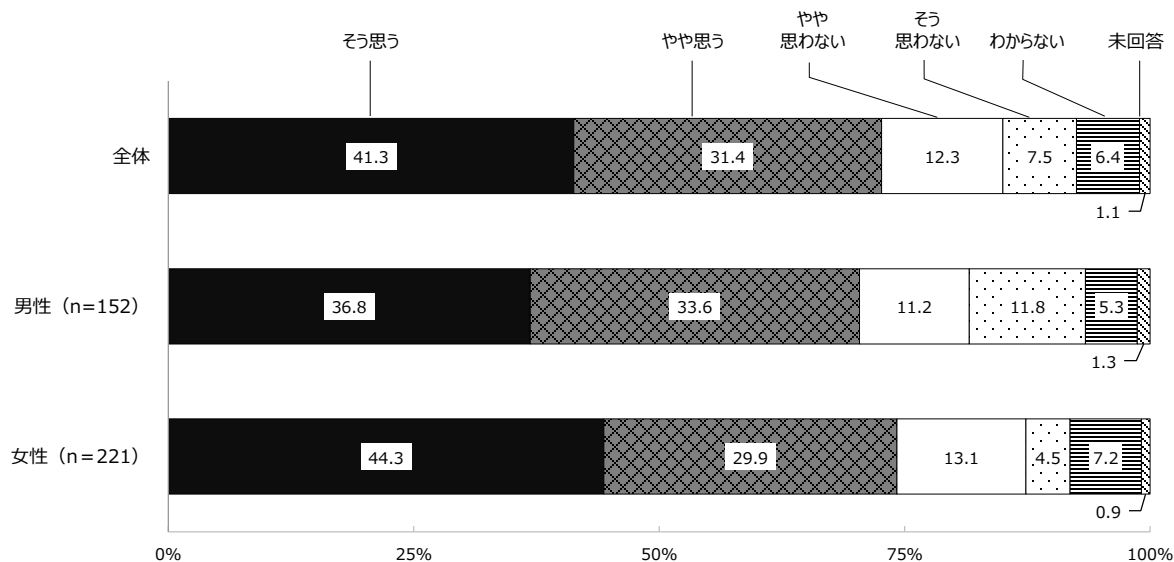
### h. 女性は、仕事をもっても家事・育児もきちんとすべきである



『女性は、仕事をもっても家事・育児もきちんとすべきである』と思うか聞いたところ、「そう思う」「やや思う」が41.0%、「そう思わない」「やや思わない」が50.9%となっている。

性別で見ると、「そう思う」「やや思う」は女性（38.9%）の方が男性（44.1%）より、5.2ポイント低くなっている。

i. 女性（妻）が仕事をもって、男性（夫）が家事・育児に専念するという選択肢があってもよい



『女性（妻）が仕事をもって、男性（夫）が家事・育児に専念するという選択肢があってもよい』と思うか聞いたところ、「そう思う」「やや思う」が72.7%、「そう思わない」「やや思わない」が19.8%となっている。

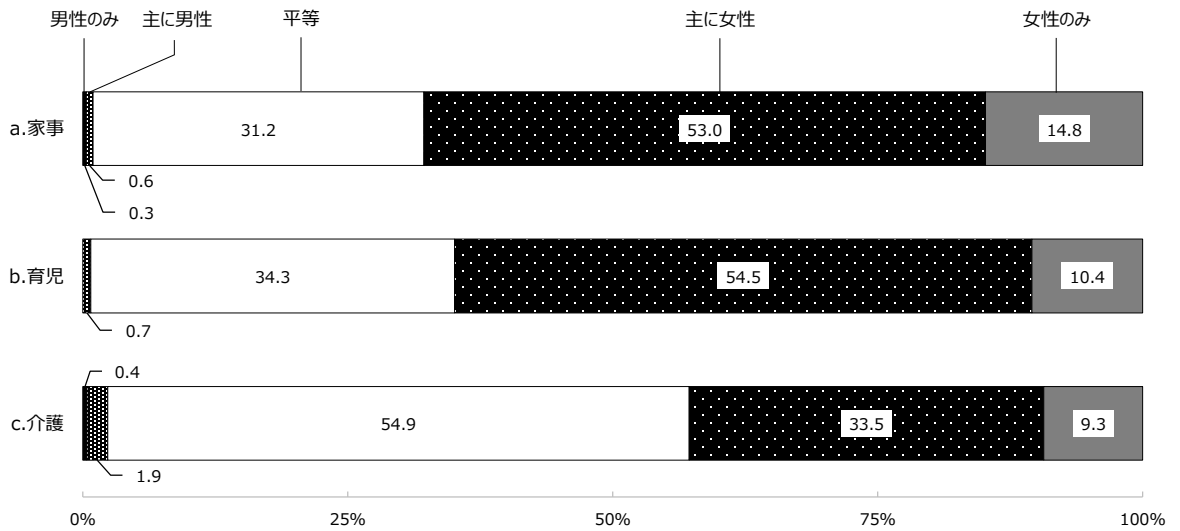
性別で見ると、「そう思う」「やや思う」は女性（74.2%）が男性（70.4%）より、3.8ポイント高くなっているが、大きな格差はみられない。

**固定的性別役割分担**

男女問わず個人の能力等によって役割を決めることが適当であるにも関わらず、男性、女性という性別を理由として、役割を固定的に分けることをいいます。

「男は仕事・女は家庭」「男性は主要な業務・女性は補助的業務」等は固定的な考え方により、男性・女性の役割を決めている例です。

**問12** あなたのご家庭では現在、男性・女性の役割分担はどうしていますか。〔a.家事〕、〔b.育児〕、〔c.介護〕について、当てはまる番号をそれぞれ1つだけ枠の中に記入してください。  
 ※女性だけ、又は男性だけの家庭の方は記入不要です。

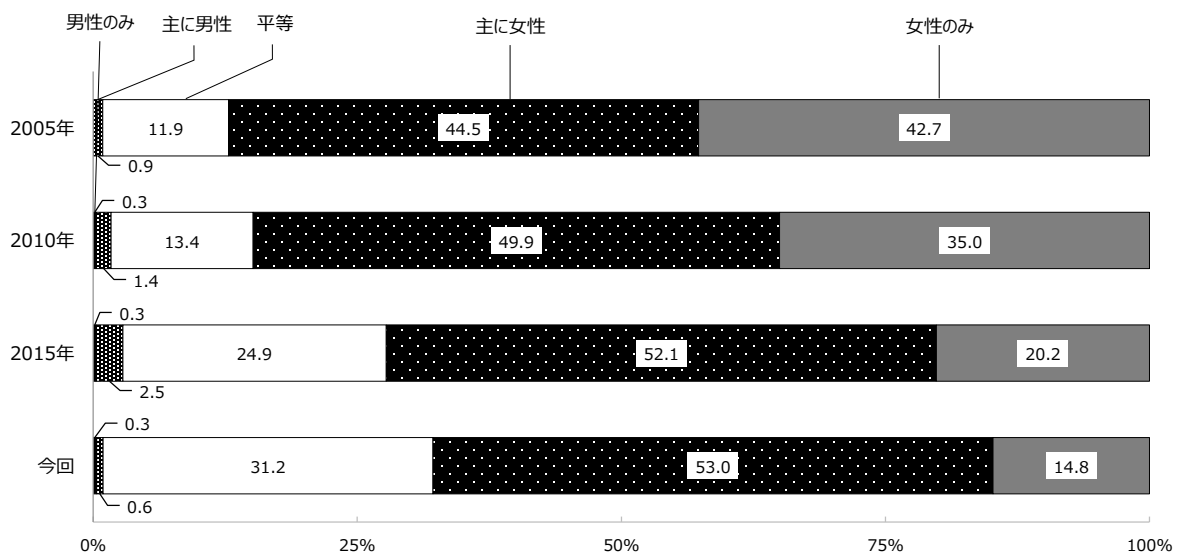


『家事』については、「平等」が31.2%、「主に女性」「女性のみ」が67.8%、「主に男性」「男性のみ」が0.9%となっている。

『育児』については、「平等」が34.3%、「主に女性」「女性のみ」が64.9%、「主に男性」「男性のみ」が0.7%となっている。

『介護』については、「平等」が54.9%、「主に女性」「女性のみ」が42.8%、「主に男性」「男性のみ」が2.3%となっている。

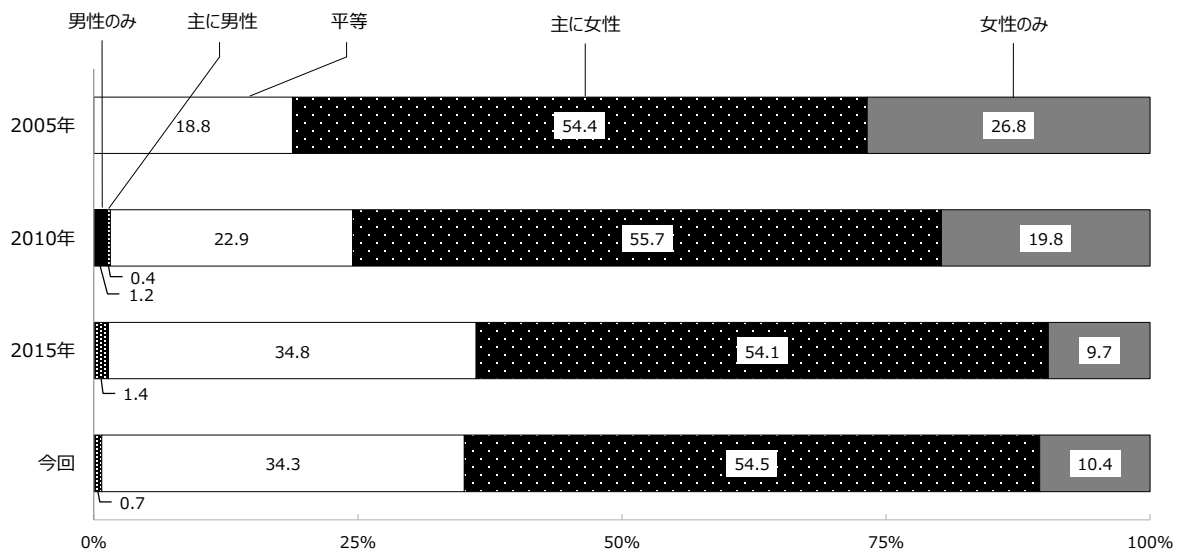
### a. 家事



『家事』について、「平等」の占める割合は経年増加している。

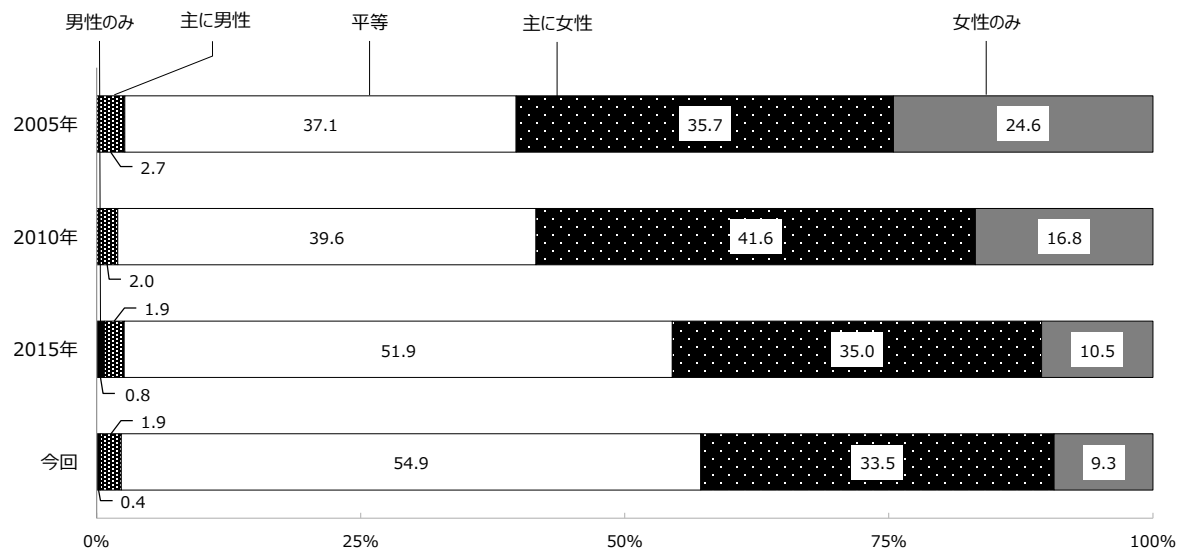


## b. 育児



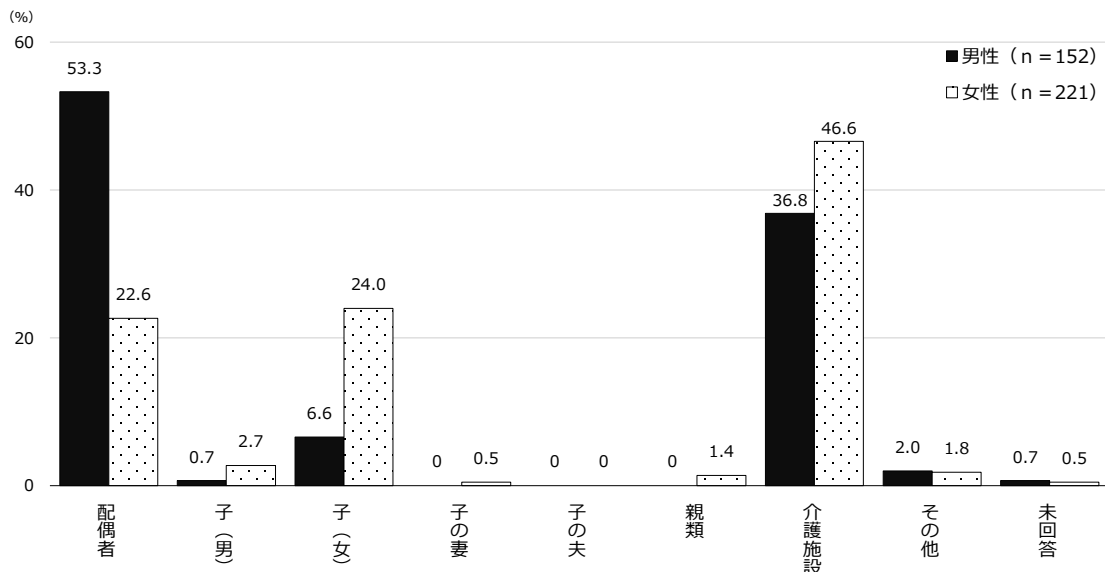
『育児』について、「平等」の占める割合は経年増加していたが、前回と比較すると「平等」が微減しており、「主に女性」「女性のみ」が微増している。

## c. 介護



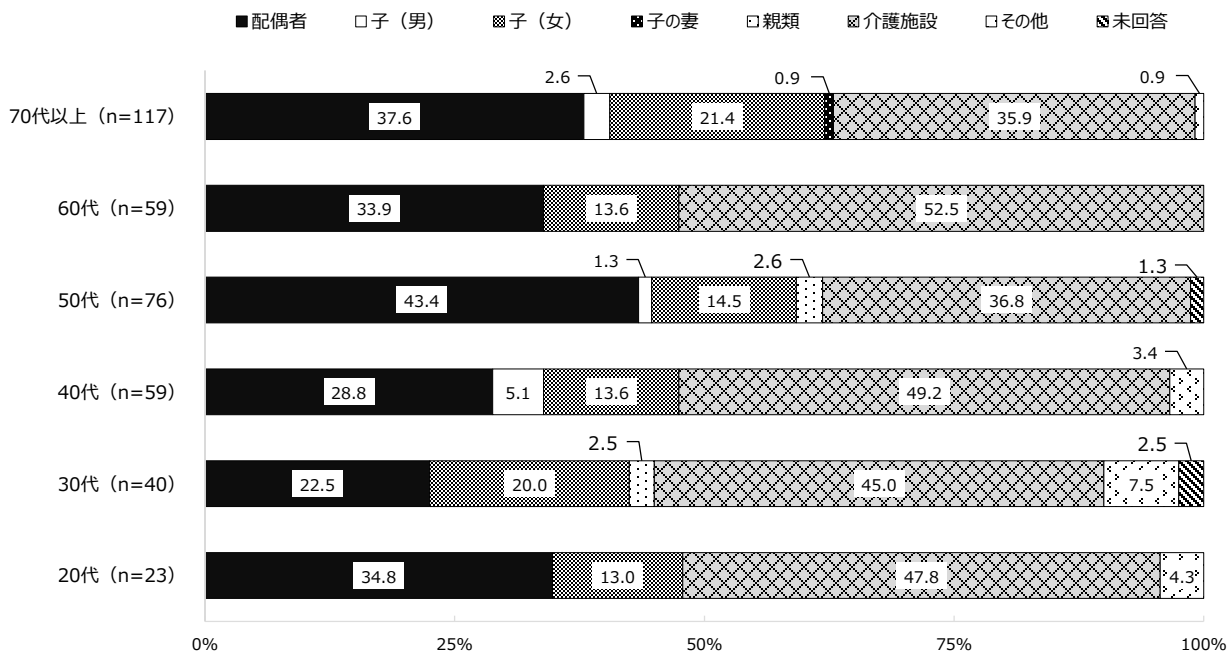
『介護』について、「平等」の占める割合は経年増加しており、2015年以降半数を超えている。

**問13** あなたがもし高齢などの理由で、自分の身の回りのことができなくなったときは、だれに介護してもらいたいですか。当てはまる番号を1つだけ枠の中に記入してください。



だれに介護をしてもらいたいかについて、男性は「配偶者」が53.3%と最も多く、次いで「介護施設」の36.8%となっている。女性は「介護施設」の46.6%が最も多く、次いで「子(女)」が24.0%、「配偶者」は22.6%となっている。

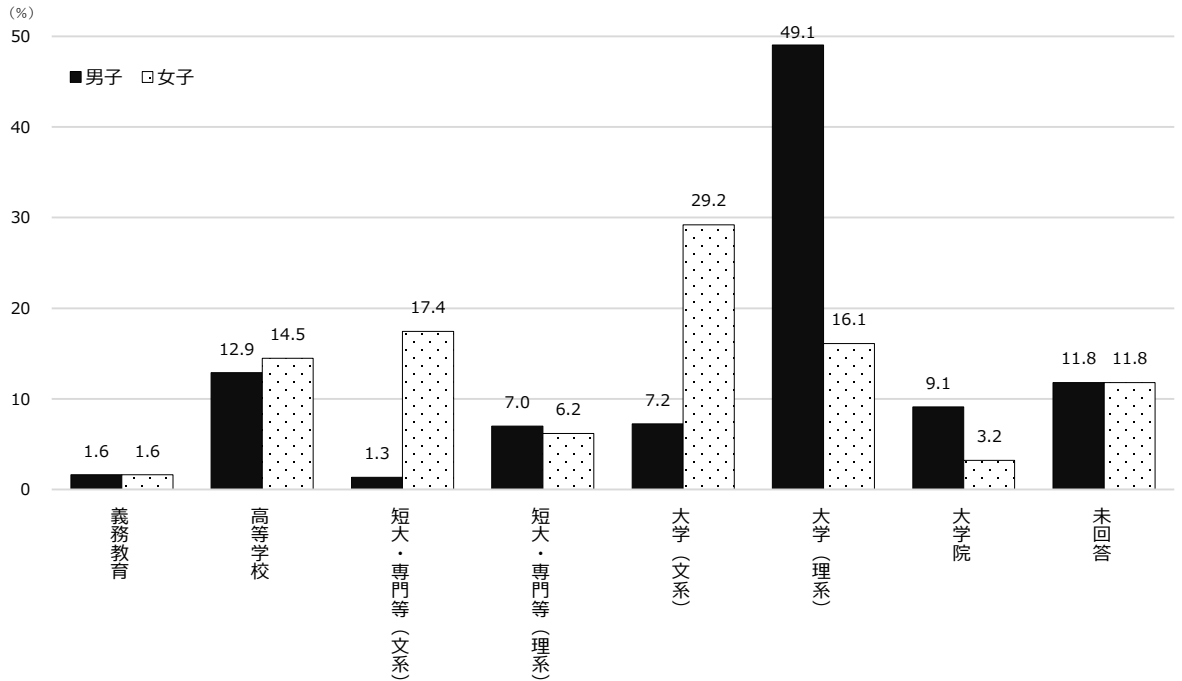
▶年代別でみる介護をしてもらいたい相手について



年代別に見てみると、20代～40代及び60代では「介護施設」とする割合が最も高くなっており、50代及び70代以上では「配偶者」とする割合が最も高い。

**問14** あなたのお子さんには、もしくはあなたにお子さんがいたとすれば、どのような学校教育を受けさせたいですか。当てはまる番号をそれぞれ1つだけ枠の中に記入してください。

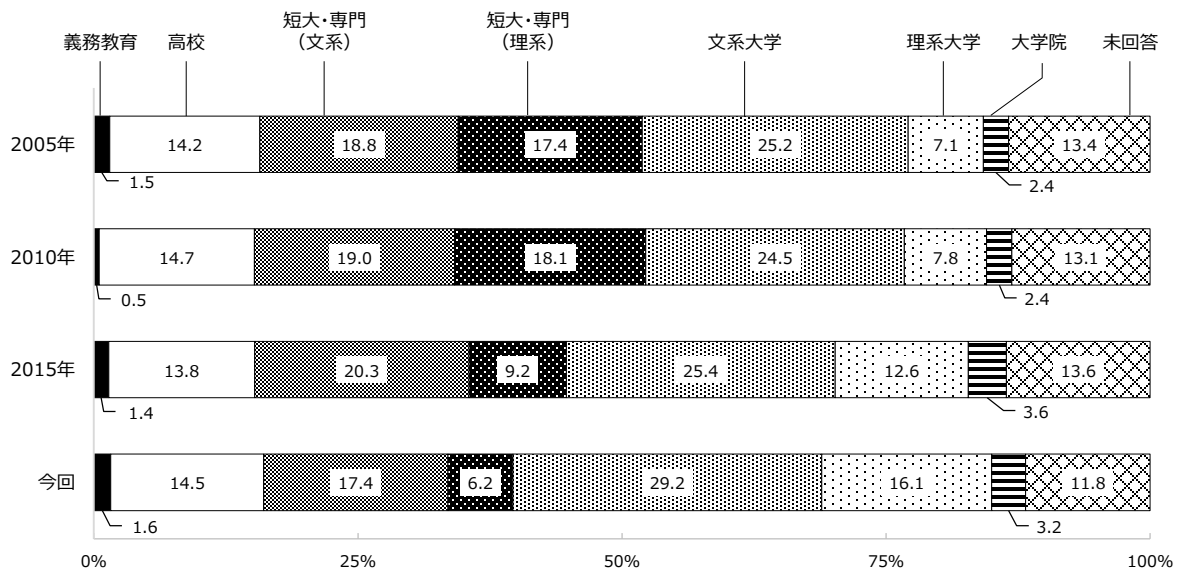
(n=373)



子どもに受けさせたい学校教育について、男子は大学（理系）が49.1%、女子は大学（文系）が29.2%が最も高くなっている。

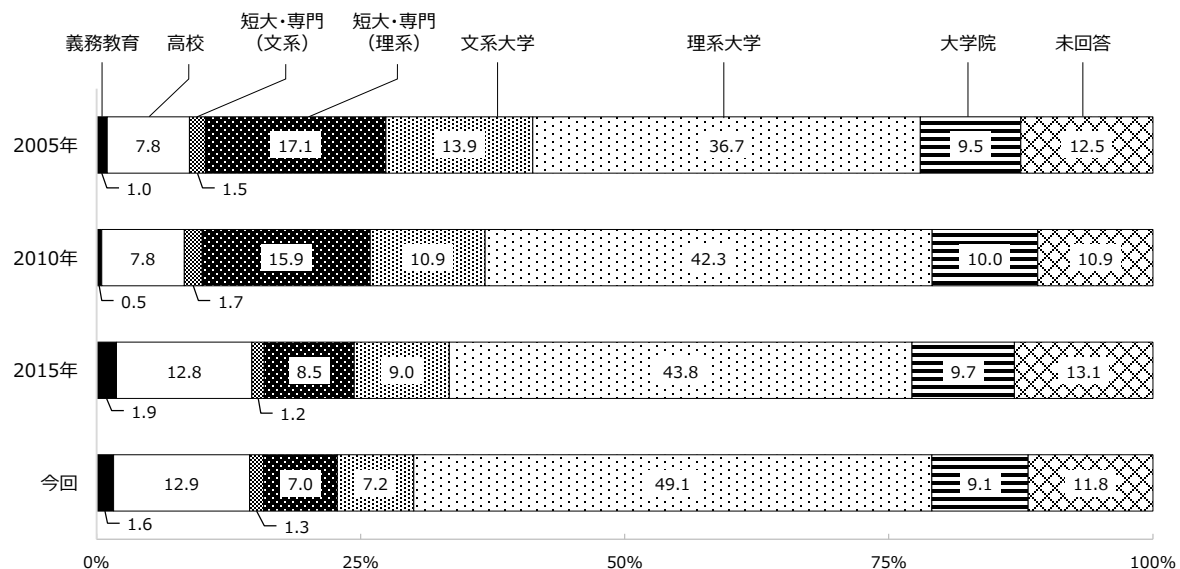
また、「未回答」とした回答の中には“子どもの希望を尊重したい”とする意見が含まれていた。

### ▶女の子さんの場合



過去の調査と比較すると、「文系大学」「理系大学」とともに約4ポイント増となっている。「短大・専門学校」とする割合は経年減少傾向にある。

### ▶男のお子さんの場合



過去の調査と比較すると、「理系大学」が経年増加しており、今回の調査では約半数を占めている。「短大・専門(理系)」「文系大学」は経年減少傾向にあり、2005年では約30%を占めていたが今回の調査では約14%と半減している。